

平成29年度 学校評価・自己評価 成果と課題

昭和町立押原中学校

1 評価の方法

「A-そう思う」を5点、「B-ややそう思う」を4点、「C-あまりそう思わない」を3点、「D-そう思わない」を2点、「E-わからない」を0点とし、その合計を回答者で割り、平均点として示した。なお、「E-わからない」については、職種によって判断できないことが生じるので、この項を設定した。「E」の回答数は、回答者数から除いた。【回答者数31名】

2 総括

5段階評価が4.0以上の項目が30項目中すべて(内24項目は4.5以上)あり、基本的には良好な評価を得られた。その結果、本年度は学校教育全体に渡って、ほぼ良好であったと言える。

今年度は、評価4未満の項目はなかった。教職員の共通理解を図る中で常に改善していく意識で臨んでいきたい。また、少数意見にこそ改善のヒントがあると捉え、より良い学校運営がなされるよう改善を図っていきたい。

(1) 学校教育目標に関すること

◎→+評価 ☆→課題 →その他

①教育目標

No.	具体的評価内容	昨年度	本年度 5段階	比較	意見
1	学校教育目標や重点目標が、社会の変化や地域の特色・生徒の実態に即応したものになっている。	4.7	4.6	-0.1	☆校訓である進取創造を意識する機会を設定し、子供達及び保護者等に周知していく努力が必要である。 ◎学校運営協議会の開設や道徳授業の計画的な実施など社会の変化や地域の特色に即応したものになっている。
2	学校教育目標などを踏まえた教育計画が立てられ、それを達成するための教育活動を行っている。	4.6	4.5	-0.1	◎計画と実践の努力がされている。 ◎授業だけでなく、諸活動においても綿密な計画が立てられており教育目標達成に向けて活動が行われている。 ☆各年度における重点目標の設定が求められる。年度の総括をもとに職員全員が意識して取り組める具体的な目標の設定を示す必要がある。 ☆やっていることはよいことが多いが、授業に影響が出るくらい忙しく活動に追われてしまう。

【考察と課題】

- ・肯定的な評価が多い。
- ・学校教育目標や重点目標、グランドデザインは生徒の実態に即応する中で、目標達成を意識した教育活動を行なっていきたい。
- ・学校運営協議会との連携を強化し、本校の年間を通して取り組む重点目標を設定し、同一歩調で協働的な取組ができるような目標の設定を考えていく必要がある。

【改善策】

- ・校訓や学校教育目標、グランドデザインを意識した教育実践をさらに推進する。また、学活・道徳の授業の充実を推進し、全校集会を仕組むと共に、日々の指導を支える土台として全職員が意識して行くようにする。
- ・現在の生徒の実態を勘案し、その年度の重点課題を共通理解した上で取組を行っていく。

(2) 学校経営に関すること

②教育課程管理

No.	具体的評価内容	昨年度	本年度 5段階	比較	意見
3	各教科の指導計画・評価計画が適切に作成され、授業時数が確保されている。	4.6	4.2	-0.4	◎授業変更にかまやかな対応をしている。自習がほぼなく実施できている点が良い。 ◎行事の取組などによって、授業時数の確保が難しい所もあるが、概ね計画通り実行されている。 ☆計画はできているが、短縮授業は行事等で授業時数が十分に確保できているとは言い難い。 ☆授業は確保されているものの、カットや短縮が他校に比べて多いようなので注意していきたい。 ☆授業がつぶれることが多かった。 ・個々の指導法を重視しつつも、協働性を持って統一感のある授業実践をしていきたい。
4	道徳・学活・総合の授業時数が確保され、それぞれの目標・指導計画に応じて実施している。	3.9	4.5	+0.6	☆道徳の授業については、だいぶ実践がされてきているが、さらに確実に時間を確保して実践することが求められる。 ☆学活については時間が多すぎるようだ。道徳については各学年とも共通して教材教具の準備をしていかなければならない。総合については他団体の要請で行わなければならない行事もあるので、しっかりと計画を立てて行っていく。 ☆学活でクラスに使える時間が少ない。 ◎完全ではないがかなりしっかりできたと思う。 ◎道徳の授業実践については以前より意識してできた。 ◎今年度は道徳への力の入れ方がよかった。

【考察と課題】

- ・各教科の時間は、時間割上は確保する努力がなされている。また、授業変更による確実な確保も行われている。
- ・授業実施時間数と学習内容の進捗を意識して取り組みたい。
- ・No4については、昨年よりはポイントが増加し4.6となった。道徳の実践がしっかりと行われている状況ができてきている。
- ・道徳、学活、総合の時間については、時間割上は確保する努力はなされている。道徳では、22項目の指導内容を計画的に確実に実施できるようにしていくことが求められる。

【改善策】

- ・授業時数の確保は最優先にし、教育課程作成の折りに各教科や担当で検討し、全体で確認する。
- ・教務主任が偏りの無いようにカットや補欠・変更を行っているが、学期末の調整時に各人が申し出て時数の確保を行う必要がある。
- ・各学級・学年において、編制された教育課程を度々確認し、早期の計画提案・内容を精査し無理のない取組を行う等が必要である。
- ・「特別の教科道徳」となる道徳を行事の取組等へ流用をしない。また、学活の時間の確保も配慮する。
- ・学年主任は、道徳・学活・総合を関連づけた週・月・年間計画一覧を作成し、全職員がいつ何をするのか把握できるようにする。

③学校運営組織

No.	具体的評価内容	昨年度	本年度 5段階	比較	意見
5	学校運営にふさわしい校務分掌(組織や個人)がなされ、それぞれ適切に機能している。	4.5	4.5	+ 0.0	◎公務分掌がおおむね機能していると考えられる。 ◎みんな平等にするわけにはいかないのですが、今いるメンバーの中で協力し合っていてと思います。
6	教職員が相互理解や信頼関係を深め、協働体制で校務や教育活動などに当たっている。	4.3	4.6	+ 0.3	◎学年や教科に関係なく、コミュニケーションを大切にし、「チーム押原中」として、教育活動を行っている。 ◎管理職3名のリーダーシップでまとまっている。 ☆学年間の連絡及び連携等がさらに必要であるが、連携を図り協働的な運営がなされてきているように思う。 ☆教職員の中にも世代間ギャップがあり、それぞれの価値観が違う中でどのように協働していくかが課題。 ☆大人の人間関係は難しいところもある。
7	管理職・教職員・学年・各分掌などで、報告・連絡・相談・確認が学校全体として機能している。	4.3	4.5	+ 0.2	◎運営委員会及び職員会議等での確認事項が、共通理解のもと、おおむね推進されている。 ◎職員数も多いため、十分ではないが、必要な情報については、学校全体で機能している。 ◎お互い会話することで解決が、見えてきているところもある。 ☆学校内で起こった出来事をいかに素早く共有化できるか？が課題 ☆報告もれが少しあった。

【考察と課題】

- ・すべての項の数値が向上し、特にNo6については、昨年より0.3ポイントの増加した。相互理解が進み、協働体制が確立してきたものとする。
- ・情報の共有化の面では、数値的には向上しているものの、今後も、学年を越えた情報交換だけでなく、学年内でも情報交換を密に行っていくことが必要である。

【改善策】

- ・働き方改革を意識し、常に業務改善を図っていく意識で取り組んでいく必要がある。
- ・分掌や協働体制については、個人により資・量のちがいはあるが、各分掌が機能的かつ協働的に推進できるよう、教職員一人一人の意識を高めていきたい。
- ・自らの分掌において、学校運営に参画していることという意識を強く持ち、各自の分掌で責任を果たすことが必要である。
- ・互いが支え合って業務を推進しているという思いを高められるようにしたい。また、ヘルスケアに留意し、互いが支え合える温かい職員集団を目指していきたい。
- ・学年間の情報交換を密にするために、運営委員会・生徒指導部会などで討議・確認された内容を、必ず各学年で伝達する。「報・連・相」の徹底を図ることを基本とし徹底を図っていく。
- ・人事評価制度の目標設定や評価・面談を通じて、分掌の職務内容や意義、取組の成果を確認・伝達することにより、やりがいを感じながら取り組んでいけるようにする。
- ・教育公務員として、職務に専念することを再確認し、主体的に取り組む姿勢に期待したい。

④安全管理 ⑤保健管理

No.	具体的評価内容	昨年度	本年度 5段階	比較	意見
8	安全・防災・防犯・情報などの危機管理マニュアルが整備され、適切に点検・管理を行っている。	4.7	4.6	- 0.1	◎避難所運営マニュアルも作成された。さらに実践的な取組を行っていききたい。 ◎安全点検がしっかり行われている。 ☆年度始めに、点検及び確認を行っているが、必要に応じて点検する場を設けることも必要かと思う。
9	防災計画により大規模地震災害や火災発生時の緊急体制が整備され、避難訓練等防災教育が適切に実施されている。	4.9	4.6	- 0.3	◎より実質的な対応ができるように意識されるようになっている。 ☆マンネリ化しないような取組が大切。 ☆抜き打ちの避難訓練には一定の価値があると思うが、生徒にとって「やはり訓練」教員にとっても意識の薄さが気になる。 ☆訓練の際、意識が低い生徒も見受けられるので、事前の指導を徹底し、防災意識の高揚をはかる必要がある。 ☆予告なしの訓練も当たり前に行えるようになってきたので、課題を踏まえて次の段階へと進む時期だと感じます。
10	健康診断・心身の健康相談の他健康教育指導を行い、生徒の健康管理能力の育成を図っている。	4.6	4.5	- 0.1	◎養護教諭を中心に健康教育に気を配り実践されている。 ☆今後も学級活動等特別活動にも取り組む必要がある。 ☆歯磨きやうがいの指導が十分ではなかった。
【考察と課題】					
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に好評価で有り、防災教育の指定(平成26年度)を受け、研究・実践に取り組んだ成果が出ていると考えられる。3年に一度行う予定である、DIGの実践(次は平成32年度)はぜひ、継続していきたい。 ・東日本大震災から7年が経過し、職員・生徒共に、防災や安全に対する意識が低下しつつある。 ・防災訓練については、実践的な取組が行われており、今後も継続させていきたい。 ・突発的な訓練においてもだいたい慣れマンネリ化を感じる生徒がいるのが現状である。今後、じっくりと防災及び減災について考え、想定して行動化が図れるような取組を行っていく必要がある。 					
【改善策】					
<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理について、事後対応への取組は充実してきていると考えられるので、未然防止に注目して取り組み、攻めの指導を行っていききたい。 ・避難訓練は、各回とも重点項目を明確にし、評価を確実に行う中で、実践力を身に付けさせていく。 					

⑥特別支援教育

No.	具体的評価内容	昨年度	本年度 5段階	比較	意見
11	教職員の共通理解の基で特別支援教育の体制が整えられ、計画的、効果的な指導を行っている。	4.5	4.5	+ 0.0	◎支援体制は手厚いと感じている。 ◎コーディネーターを中心に研修も行っている。さらに連携を進めていきたい。 ☆授業時数の関係で特別支援学級に入れない先生方もいるが、来年度は1時間ずつでも関わられるような時間割作成を考えていきたい。(授業時数は増えるかも知れませんが)また、普通学級にいて支援を要する生徒についても今後支援員さんを中心に各学年の先生方も含め、TTなり、取り出しなりの工夫が少しでもできるようにしていきたい。 ☆担当を中心に計画的、効果的な指導を行っている。今後、職員の共通理解をさらにはかり、充実をめざしていく。
12	専門機関などとの連携を図り、特性や障害に応じた指導計画の作成や適切な指導を行っている。	4.5	4.5	+ 0.0	◎専門機関(SC、SSW、児相、福祉課、医療機関等)に指導助言をいただきながら、連携を図っている。 ◎スクールカウンセラーや支援学校等の助言をもとに特性に合った指導を行っている。 ☆自分の力不足もありどこまでどうやって教えていけばいいか十分に対応できないところがあった。 ☆発達支援(傾向)の生徒に対しさらにきめ細かく対応していきたい。

【考察と課題】

- ・いずれの項目も昨年度同様高い数値が示され、本校の特別支援教育の充実が評価を得ている。
- ・特別支援学級には担任だけでなく、多くの職員がかかわって対応しているので、その指導方法等については不安を持っている先生方もいる。
- ・個別に関係者会議を開き、より綿密な指導体制を構築したいが、なかなかその時間を生み出すことが、困難であった。その中でも情報の共有化はなされたが、多忙感も生まれた。
- ・非行傾向の生徒を特別支援の視点から分析し、対応策を考えることが必要である。
- ・通常級における特別な支援が必要な生徒に対し、より丁寧な対応や取り出し指導により自己肯定感を高められるよう指導していきたい。

【改善策】

- ・様々な特性を持つ生徒に対し、その対応を全教職員で確認・協力していく必要がある。
- ・コーディネーターを中心に教師同士の打ち合わせや情報交換をさらに推進するとともに、外部機関との連携を進めて、個々の生徒にきめ細かく対応していく。
- ・校内委員会がより機能するために、コーディネーターを中心に、普通学級にいる支援を要する生徒への対応も含め、今できることは何か、具体的な対処方法及び指導の方向性を出し、職員間で共有化しながら進める必要がある。
- ・一人ひとりが合理的配慮をいかに進めるか、また特別な支援は何ができるのかを考え対応ができるよう研修を通し、実践的指導力を高めていく。
- ・職員会議等で特別支援学級からの情報提供をし、情報を共有する場をつくる。

⑦研修

No.	具体的評価内容	昨年度	本年度 5段階	比較	意見
13	教育課題に対応した校内研究が企画され、意欲的、積極的に取り組んでいる。	4.5	4.3	- 0.2	◎研究主任を中心に、実践研究しようとする体制がある。時世に合ったテーマを掲げている。 ◎活用型授業や道徳の授業化など、今、喫緊の教育課題について、研究主任を中心に意欲的、積極的に取り組んでいる。 ◎ワークショップ形式での研究討議が取り入れられたことがよかった。 ☆守備範囲が広くて大変だと感じたが、根幹は教科指導だと考える。それは少し足りないかなと感じた。 ☆家庭学習に関してはクラス独自の取組を優先してしまった。 ☆校内研、職員会議が16:30開始は勤務時間を考慮していません。6校時カットなどを考えてほしい。
<p>【考察と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、「ねらい・活用・まとめ」のボードを常に使った授業をがきるようにしなければならない。 ・ワークショップ型の研究会を通し、協働的な研究意識が高まってきたように感じる。 ・主体的な学習意欲をいかに高めるか、活用型授業の実践と家庭学習への課題の与え方が相互に作用すると思われる。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用型授業を進めるにあたり、学級にける人間関係づくりが基礎となる。それとともに授業における「学び合い」「話し合い活動」を各教科の特性に合わせ実践していく。 ・互いの実践を見合うようにする機会を今後より多く設定していきたい。 ・家庭学習のねらいをどのようにとらえるのか、再度全職員で共通理解し、実践していくことが必要である。 ・校内研究、授業づくり活動は、指導者である教員が、専門職として継続的に主体的に学び続けるものとして日々研修に努めたい。 					

(3) 学習指導に関すること⑧学習指導⑨進路指導

No.	具体的評価内容	昨年度	本年度 5段階	比較	意見
14	教材教具や展開の工夫、生徒の学ぶ意欲を喚起する授業や学習習慣の確立を図る指導を実践している	3.9	4.2	+ 0.3	☆ICT機器の効果的な活用や小グループでの学習活動など、学習意欲を喚起する手立てをさらに講じる必要がある。 ☆教材教具の工夫や言語活動の充実に向けた思考の深まりのある授業がさらに必要である。 ☆時間が取れないのが課題。
15	ねらいを意識させる中で、基礎基本の定着を図り、活用力を育て、確かな学力の育成を期した授業方法の改善に努めている。	3.9	4.3	+ 0.4	◎改善を目指した取組ができていると思う。 ◎すべての授業で、黒板に「めあて」・「活用」・「まとめ」を表示し、1時間の見通しを持った授業が行われている。お互い刺激し合い学び合っていると思う。 ☆まだ、「めあて」というボードも示せずに授業を進める実践がある。 ☆基礎学力の定着を意識し、繰り返し学習を進めること、そして家庭学習の充実が図られ、授業との連続性が示されることが課題である。 ☆ねらいを意識させるとともに振り返りを工夫してさらなる改善を図る必要がある。
16	観点別学習状況の評価・評定を明確にし、信頼性を確保し、説明責任が果たせるよう努めている。	4.6	4.6	+ 0.0	☆さらに質的な評価を高めるよう、教科内の教職員間での共通理解を図っていく場面を設定したい。教科内で授業論等を自然と確認し合うなどの場面がほしい。 ☆評価の仕方が変わるのに合わせた事前の研修が必要かも。3観点を如何に5段階評定に組み替えるのか。 ☆評価が、ペーパーテストと提出物などで図るウエイトが高いのではないか。日常の授業の評価をさらに丁寧に進めていけるよう推進していきたい。

17	3年間を見通したキャリア育成計画のもと、職業観や人間関係形成・社会形成能力を育成するための指導に努めている。	4.1	4.1	+ 0.0	<p>◎各学年ともに計画的にキャリア教育の取組を行い、充実した指導を行っている。</p> <p>☆職業観を意識した生き方教育の実践がさらに必要である。</p> <p>☆今やっていることが全体計画のどこに位置づけられているのかという意識が薄かった。</p> <p>☆職場見学など精選していくべき。</p> <p>☆おおむね良好だが、教職員の入替があるという状況を考え、次年度への引継がしっかりとできるように考えていきたい。公開から6年が過ぎ、一度全員で確認することも必要。</p> <p>☆自己有用感・自己肯定感の高まりを育成していきたい。</p>
<p>【考察と課題】</p> <p>・No14(+0.3)及びNo15(+0.4)については昨年に比べ、授業改善への意識の高揚とともに授業改善の取組への実感をもっているといった数値結果がみられる。さらに同僚性を発揮して、協働的に研究する体制を推進していきたい。</p> <p>・生徒アンケートでは、「わかりやすい授業」AB 92% (昨年89%一昨年84%)、進路学習AB 83% (昨年80%、一昨年78%)、保護者アンケートでは、「わかりやすい授業」AB 63% (昨年63%、一昨年62%)、進路学習AB 71% (昨年74%、一昨年74%)と昨年度よりやや高い数値が出ている(保護者の進路学習以外)。学校での取組の様子を保護者にどのように伝えていくかも課題と考えられる。</p>					
<p>【改善策】</p> <p>・「山梨スタンダード」や「学びの甲斐善8か条」、「言語活動ハンドブック」等を活用し、授業改善にさらに積極的に取り組む。</p> <p>・自己観察書の目標設定を常に意識し、一人一実践への取組を行うとともに日ごろから授業力の向上が図れるよう意識する。また、OJTの視点からも互いに授業の観察交流を積極的に行っていく。</p> <p>・授業案、ワークシート等の資料の共有を行う。</p> <p>・多忙であることを理由にせず、教材研究等の時間をどのように生み出すか、業務の優先順位や段取りを工夫して欲しい。授業のプロとして取り組みたい。</p>					

(4) 生徒指導に関すること⑩生徒指導

No.	具体的評価内容	昨年度	本年度 5段階	比較	意見
18	生徒指導目標が設定され、生徒指導(いじめ・問題行動・不登校)の組織、分担などの生徒指導体制が整備されている。	4.5	4.6	+ 0.1	◎生徒指導主事を中心に取り組んでいると思う。また、相互に努力していると思う。 ◎一人一人の生徒を大切にしていねいな指導がなされている。 ◎毎月の職員会議、毎週行われている生徒指導部会において、目標が確認され、組織的に生徒指導が行われている。 ◎きまりの意義や解釈、教師の思いを伝えるのにKJJは役に立った。 ☆学年職員をまとめる立場であったが、共通理解を図りきれないところがでてしまった。
19	基本的な生活習慣・規範意識(挨拶・服装・時間・きまり)の形成や向上に向けた指導を行っている。	4.3	4.7	+ 0.4	◎学年間のぶれがないよう留意し指導がなされている。 ◎教職員だけでなく、生徒会活動としても取組を行い、生徒自身の問題として考えさせ、基本的な生活習慣の形成を行っている。 ☆一層の定着を図るため、学校での取り組みを地域、家庭に報告していく必要を感じる。
20	いじめ・問題行動や不登校の早期発見や解決に向けて、全校体制で適切に指導に取り組んでいる。	4.5	4.6	+ 0.1	☆いじめゼロ宣言の具体的な取組があり一歩前進した。さらに生徒主体の取組としたい。 ☆不登校生徒への対応について、担任を中心に行っているが、今後、スクールカウンセラーや専門機関との連携も含め、学校全体で更に取り組んで行く必要がある。 ☆防犯講話などを生徒だけでなく保護者にも行えるとよい。
21	道徳・特別活動などで、生命尊重や思いやりの心、聴きあい話し合うなどの良好な人間関係の育成に取り組んでいる。	4.2	4.5	+ 0.3	◎道徳が少しずつしっかりした運営ができるようになってきている。道徳の授業の中で、さらに考える機会を設定したい。 ◎道徳などの授業以外にも、講話などが多くあり、取り組むことができている。 ☆道徳が少しずつしっかりした運営ができるようになってきている。道徳の授業の中で、さらに考える機会を設定したい。 ☆道徳の講演会や人権講話など、「命の大切さ」をテーマに取り組んだ。聴き合う関係については、今後努力課題である。 ☆グランドデザインの根底にある「いのちの教育」をもっと意識していきたいです。
22	生徒・保護者からの学校生活の悩みや進路などの相談を真剣に受け入れている。	4.7	4.7	+ 0.0	◎担任を中心に生徒や保護者の悩みを丁寧に聞き共に考えようとしている。 ☆教師に相談したくなる雰囲気をつくらせていきたい。
23	朝の登校時・給食・清掃・集会など、生徒とともに活動し、生徒との人間関係づくりに努めている。	4.7	4.7	+ 0.0	◎師弟同業を心がけ、生徒との望ましい人間関係づくりに力を注いでいる。 ☆勤労的な活動において率先して行動し指導をするように努めていきたい。 ☆朝練習への生徒の登校時間に対し、顧問教師の学校到着時間が遅い実態がある。顧問が来られる時間に合わせて生徒の登校時間を設定したらどうか。 ・個人として努力している。

【考察と課題】

- ・不登校生徒の緊急かつ一時避難場所としての別室が機能しており、大きな成果を出している。
- ・指導の困難な生徒にも粘り強く指導している。
- ・思いやりの心、良好な人間関係の育成については、道徳の内容及び授業時数確保と大きく関連してくる。
- ・いじめ不登校等への指導・対応について、学校と保護者の捉え方に大きな乖離が見られる。

No20の自己評価4.7、No22の自己評価4.8に対して、保護者アンケートでは、「親身になって対応」71%(昨年度73%)、「いじめ不登校等の対応」AB 53%(昨年度53%)、さらに生徒アンケートでは「相談する先生」AB74%(昨年度73%)と、教員と保護者生徒との認知意識のギャップが出ている。昨年度より数値の多少上がっている項目が多いものの、検討課題として取り組んでいきたい。

- ・保護者や生徒への対応に関しては、迅速な連絡で初期対応を図っており、クレームもどきの相談も減少していると感じる。電話による対応だけでなく、相手の表情から感情を図る上でも、家庭訪問あるいは来校を願っての顔を合わせた相談活動を丁寧に行うことをこれからも励行していく。
- ・地域や家庭の大人に見本を求めることが難しい中、生徒にとって身近な大人である教職員が、意識して(わざとらしくとも)行動を示すことが必要である。
- ・生徒に寄り添うことと、迎合することの違いを意識すると共に、保護者へも伝えていきたい。
- ・SCとの連携により、大きな成果が出ている。地域の方々が学校をも守る目ができてきている。地域とのつながりをさらに強化し、学校で育む資質・能力を地域と共に対応しようとする関係性をさらに構築していく。
- ・一人ひとりの特性の捉え方を再確認したい。教師の推測、見切りで判断し、指導が一方的になる場合がある。必ず他教師の意見を求めるようにして対応を進めていきたい。

【改善策】

- ・今後も生徒指導担当、相談室担当、養護教諭、学年職員、管理職との情報の共有化を密にし、互いに支えあいながら、温度差なく連携して組織的に取り組んでいく。また、スクールカウンセラーや様々な外部機関との連携・協働を更に進めて、個々の生徒にきめ細かく対応していく。
- ・学年主任及び学年生徒指導担当が中心となるような機能的で組織的な学年生徒指導体制を確立しながら、「自分が指導する」意識を全員が持ち、教師の転任等があっても大きく崩れない指導体制をつくる。
- ・道徳の授業ばかりではなく、短学活、授業、給食、清掃などの場面で、日常的に思いやりの心や生徒の人間関係づくり指導に取り組むとともに、ピアサポート、ピアメディエーション等の手法も活用して、意図的に取り組む必要がある。特に学級担任は、朝帰りの会を充実したプログラムとともに大切な時間として欲しい。
- ・指導が困難な生徒についての愚痴をつい言うってしまう気持ちもわかるが、「できないから駄目だ」ではなく「できないから、できるようにどう指導して行かか」という視点が共有化され、地道な指導の積み重ねを全職員でしていきたい。生徒の問題ではなく、教師の課題として取り組みたい。
- ・保護者生徒への対応は、適時な連絡対応、やり過ぎと思われるくらいの丁寧な対応を行う。

(5) 保護者・地域社会との関連に関すること

No.	具体的評価内容	昨年度	本年度 5段階	比較	意見
24	特に保護者と連携して教育活動を進めるよう、たより・電話・家庭訪問などで情報提供をしている。	4.3	4.7	+ 0.4	◎家庭との連携はていねいに行っているものと思われる。欠席生徒や気になる生徒については電話連絡や家庭訪問を行い、保護者との関係を大事にしている。 ◎電話や家庭訪問での対応は早めにはできた。 ☆やっているとありますが、今後は一層必要になってくると思います。「学校ではこんなことに取り組んでいます、お家ではどうでしょうか?」「学校ではこういう指導をしましたが、ご家庭ではどう考えますでしょうか?」ような問いかけ的な情報提供。 ☆たよりなどではあまり報告することができなかった。 ☆多忙化とよばれる要因の一つだと思ふ。
25	保護者や地域の方が、授業・行事参観やPTA活動など、気軽に学校に来られるよう配慮している。	4.6	4.9	+ 0.3	◎授業参観、学校開放などが多く実施されていると思います。 ◎学校開放日を設け、保護者や地域の方が、学校に来やすいよう配慮している。 ◎生徒も教師も参観を特別なものではなく、日常的なこととして感じられるようになっていっていると思う。 ・学校開放日等で授業を見られることでよりよい授業づくりにつながっていったらいい。
26	保護者・学校運営協議会その他地域住民の意見や要望を取り入れて、教育活動の改善を図っている。	4.3	4.6	+ 0.3	◎コミュニティ・スクールの導入により地域との関係性がさらに高まってきている。 ◎いただいたご意見を教育活動に反映できるよう努力をしている。 ◎学校運営協議会を中心に地域住民の声を大事にした教育活動を行っている。

【考察と課題】

- ・多忙の中、たよりの発行や家庭への電話連絡、家庭訪問が負担が増加している状況がある。各取組にこれでよしという限度は無いが、限られた時間の中で精一杯行っている。
- ・各学期1回(1週間)の学校開放日の設定により、少ない人数であるが、保護者の学校及び教科授業への関心が見えた。同時に、教師側の意識の向上が見られた。
- ・ホームページ等による学校情報の公開や提供をはじめ、PTA活動や地域との連携等については、ほぼ良好である。
- ・コミュニティ・スクールが定着し、押原中型CSの方向性が定まってきた。今後は担当の負担を過多にならぬように、教育委員会や小学校3校と連携してシステム作りを行っていく必要がある。
- ・学校の様子、生徒の様子、担任の思い、現在の取組、予定等の情報発信について、担任による頻度の差が大きい。

【改善策】

- ・今後も学校開放週間を学期に1回行っていく。保護者の参観率の向上に向けて、ホームページ上の「学校からのお知らせ」だけでなく、メール配信を合わせて行う。
- ・安否情報とともに学校情報をメール配信時にホームページに直接アクセスできるようにアドレス情報の提供をさらに行っていく。また、HPにて学校の強み(良い点)等を紹介し、子供の頑張りや教職員の取組の様子をアピールできるようにしていく。
- ・保護者、地域の住民の適切な意見を反映し、押原中学校の信頼を高めるように、見える努力を行う。
- ・コミュニティ・スクールでの地域人材活用や地域との協働活動を更に充実させていきたい。
- ・行事や活動の様子について、保護者や地域住民から意見をいただけるような雰囲気をつくり、声を学校教育に反映できるように取り組んでいく。

(6) 施設・設備に関すること⑫施設・設備

No.	具体的評価内容	昨年度	本年度 5段階	比較	意見
27	学校施設設備は、安全な生活環境やふさわしい学習環境として整備されている。	4.7	4.6	- 0.1	◎安全な学習環境の整備に努めることができている。 ◎クーラーやチャイム等の故障があったが、学期に1回安全点検を行うなど努力している。 ☆非常扉、カギが内側からかかっている非常階段などを確認した方がよい。
28	教育活動に必要な設備や教科備品・部活動備品など、整備・充実している。	4.7	4.6	-0.1	◎備品についてはおおむね整備され有効に活用されている。 ◎町の理解もあり、備品予算に関しては整備充実している。 ◎設備面やバスの費用など他市町村に比べ充実している。当たり前だと思わずに大切に使う気持ちを教師も生徒も持つようにしたい。 ☆電子黒板の設置を増やしたり、映像資料を手軽に見せられる環境が整っていない。

【考察と課題】

- ・施設設備、備品の量的充実については、ほぼ良好である
- ・維持管理については、有効利用等で考慮すべきことがある。

【改善策】

- ・恵まれた施設・設備等を大切に使うことを、学校教育全般で指導していくとともに、生徒のみならず教師もそのような意識を常に持って業務にあたる。
- ・町予算が削減される中、備品だけでなく、消耗品においても有効活用していくようにする。
- ・備品の有効な活用のために各教科や部活動等各分掌で、備品関係の把握をしっかりと行う。特に全職員が使用することのある視聴覚備品では、貸出帳で管理の徹底を図る。

(7) 学校の特徴に関すること⑬学校の特徴

No.	具体的評価内容	昨年度	本年度 5段階	比較	意見
29	生徒は、楽しく学校生活を送っている。	4.3	4.6	+ 0.3	◎おおむね楽しく学校生活を送っているものと思われる。 ◎集団生活になじめない生徒もいるが、概ね楽しい学校生活を送っている。 ☆不登校の生徒が多いことが気になっている。
30	生徒は、目標をもって学校生活を送っている。	3.9	4.3	+ 0.4	◎学習等に目が向けられていると思います。 ◎生徒一人ひとり自分の価値観の中で目標を持って学校生活を送っていると思います。 ☆自己肯定感の数値がやや低いことが気になる。 ☆目標を持ってない生徒への対応が大切だと思う。

【考察と課題】

- ・「楽しい学校生活」について、生徒はAB 89% (昨年度88%) であり、ポイントが上がっている。しかし、保護者はAB 82% (昨年度82%) となっており、保護者の意識がやや低い傾向にある。しかし、おおむねよい状況にあると判断できる。
- ・多くの生徒は楽しく学校生活を送っているように思うが、その場限りの楽しさで行動している生徒がいることも事実である。取組によって味わえる楽しさ、協働によって得られる楽しさ、困難を克服して味わえる楽しさ等の真の楽しさを味わわせることを目指したい。
- ・学校教育目標「自ら進んで学び、たくましく生き、志を育てる生徒の育成」を達成することをあらゆる場面で、あらゆる機会に意識することで、それぞれの活動や指導がレベルアップするはずである。それが結果的に生徒にとっての「楽しい学校生活」につながると考える。

【改善策】

- ・自ら学び、考え、行動する「たくましい力」と他者を思いやり、社会の絆を深める「しなやかな心」を育てることを意識した取組を具現化していく。
- ・生徒一人ひとりが「楽しく」「目標をもって」学校生活を送っていけるよう、二者懇談等で定期的に生徒一人ひとりと対話を行い、個に応じた指導・助言を行う。
- ・学校生活の基盤となる生徒の良好な人間関係の育成について、校内研と連動して「話し合い」「学び合い」活動の指導を充実させていく。
- ・生徒会活動や行事、部活動等、教師主導で行えば時間も手間もかからないことを、あえて生徒を指導し、生徒に任せることを通じて達成感や充実感を味わわせる。また、その経験を通じて自分を知り、世の中を知ることで目標も自ずと見えてくるはずである。
- ・アンテナを高くし、普段と様子が違う生徒を見逃さないようにする。